



[PL.2]

アルバート・サンズ・サウスワース&ジョサイア・ジョンソン・ホーズ／女性像／1855年頃

Albert Sands Southworth & Josiah Johnson Hawes, *Portrait of a Woman*, ca.1855

横浜市所蔵カメラ・写真コレクションにおける アメリカン・ダゲレオタイプについての考察

日比谷 安希子

はじめに

横浜市民ギャラリーあざみ野では、平成5・6年度に横浜市がアメリカの収集家、故サーマン・F・ネイラー氏から購入したカメラ・写真コレクションを、「横浜市所蔵カメラ・写真コレクション（旧ネイラーコレクション）」として、平成18年度より収蔵管理している。本コレクションには、376点^[1]のダゲレオタイプを用いた写真作品が含まれている。特にアメリカで制作されたものの割合が高く、貴重な同時代の広告等関連資料も含まれる。これは写真専門館の収蔵作品を含む日本国内の写真コレクションにおいても、卓越した内容であり、他に類を見ない特徴である。

本稿では、コレクションの中から1839年8月のダゲレオタイプの公式発表後にアメリカで最初期に紹介されたレクチャーの告知記事、写真文化の中心となったニューヨークとボストンで活動した写真家、マシュー・ブレイディ（ca.1822-1896）、アルバート・サンズ・サウスワース（1811-1894）& ジョサイア・ジョンソン・ホーズ（1808-1901）、ジョン・アダムス・ホイップル（1822-1891）らの作品と広告等関連資料を調査して得た知見を元に、写真館運営の状況も含め、アメリカにおける初期写真の受容について考察する。

ダゲレオタイプ発明前後のアメリカの状況

ダゲレオタイプが発表される以前にも、世界各地で光学像を化学的に定着させる研究が進められていたことは、多くの先行研究によって明らかになっている^[2]。アメリカの写真発明への取り組みの例としては、画家で発明家のサミュエル・F・B・モース（Samuel F. B. Morse, 1791-1872）が1810～12年頃と21～23年頃に硝酸銀を紙に塗布してカメラ・オブスクラのイメージを撮影する実験を行っているが、その他について現在判明していることは少ない。

1839年1月7日にパリの科学アカデミーでフランソワ・アラゴ（François Arago, 1786-1853）がダゲレオタイプの発明について講演を行うと、すぐにその情報はアメリカにも伝わり、2月にはJournal of the American Institute誌に“Chemical and Optical Discovery”（「化学的・光学的発見」）として掲載されたのははじめ、数紙で知識層に知られることとなった^[3]。同年、自身の発明した電信の宣伝のためにヨーロッパ

[1] 2020年1月の時点で判明している点数。複数のダゲレオタイプが1つの額に額装されているものは1点とする。また、アンプロタイプ等の技法のものと同じ額に額装されているものも1点と数える。

[2] 写真発明の前後の状況については、ジェフリー・バッチェン著、前川修・佐藤守弘・岩城覚久訳『写真のアルケオロジー』青弓社、2010年を参照。

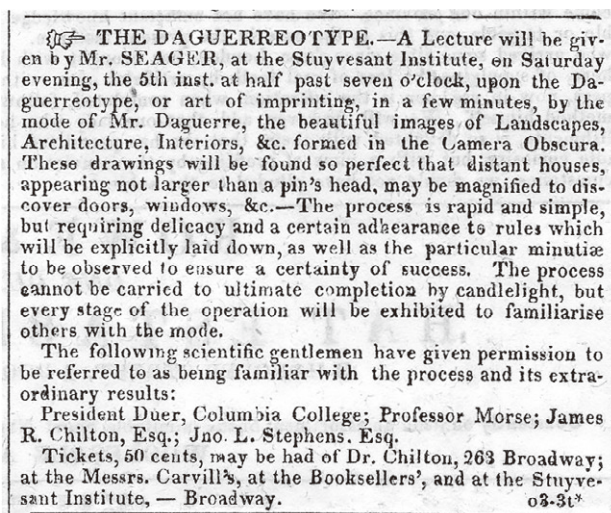
[3] “Chemical and Optical Discovery”, *Journal of the American Institute vol. 4, 1840*, Edited by a Committee, Members of the Institute, T.B. Wakeman, Publisher, p.276, “Remarkable Invention”, *Boston Daily Advertiser* (February 23, 1839), “Self Operating Process of Fine Art - the Daguerreotype”, in *Museum of Foreign Literature, Science and Art*, (March 1839) 他。

を訪れていたモースもダゲレオタイプのことを知り、3月7日にルイ・ジャック・マンデ・ダゲール (Louis Jacques Mandé Daguerre, 1787-1851) のもとを訪れ、幾つかの作例を見ている。その時の様子を、3月9日に弟でNew York Observer紙の記者シドニー・エドワードとリチャード・ケリーに手紙を書き送り、その内容は1839年4月20日発行のNew York Observer紙に掲載され^[4]、他の出版物にも転載された^[5]。当時、ダゲールはフランス政府とダゲレオタイプの発明権の取り扱いについて交渉中だったため、ダゲレオタイプの技法の詳細は公表されていなかったが、これらの報道の多さから、既にアメリカでもダゲレオタイプの情報が共有され、関心が高まっていたといえよう。

ダゲレオタイプの伝来

フランス政府がダゲールとジョセフ・ニセフォール・ニエプス (Joseph Nicéphore Niépce, 1765-1833) の息子イジドールに生涯年金を与えると共に、ダゲレオタイプの発明権を購入する法案が1839年8月に成立する。同月19日にダゲレオタイプの詳細についてアラゴが講演した。この講演と時を同じくして『ダゲレオタイプとディオラマの技術に関する歴史と詳細』が、アルフォンス・ジルー商会から出版された。この刊行によってダゲレオタイプの詳細は世界に知られることとなる。

アメリカでアラゴの8月の発表が最初に報じられたのは、9月23日付のNew-York Evening Post紙である。その後、9月25日付United States Gazette紙 (フィラデルフィア)、9月28日付Nile's National Register 紙 (ワシントンD.C.) 等の各紙が続いた。さらに詳細なプロセスの説明が10月26日発行のAlbion誌に掲載され、11月にはペンシルバニア大学の教授ジョン・フリーズ・フレイザー (John Fries Frazer, 1812-1872) によるダゲールのテキストの翻訳がJournal of the Franklin Institute誌に掲載された。しかし、それを待たずに実践する者が現れる。イギリス出身で、ニューヨークで医師をしていたD・W・シーガー (D. W. Seager, 生没年不詳) は、



(Fig.1)
「ザ・ダゲレオタイプ」モーニング・ヘラルド
1839年10月3日付
“The Daguerreotype”, *Morning Herald*, 3rd October, 1839

9月にダゲレオタイプの撮影に成功し、ダゲレオタイプに関する講演を10月5日ニューヨークでの開催を皮切りに、各地で行っている。ここで、本コレクションに含まれる10月3日付のMorning Herald紙 (Fig.1) に掲載されたシーガーのニューヨークにおけるレクチャーに関する告知記事を参照する。

THE DAGUERREOTYPE.-A Lecture will be given by Mr. SEAGER, at the Stuyvesant Institute, on Saturday evening, the 5th inst. at half past seven o'clock, upon the Daguerreotype, or art of imprinting, in a few minutes, by the mode of Mr. Daguerre, the beautiful images of Landscapes, Architecture, Interiors, &c. formed in the Camera Obscura. These

[4] *New-York Observer* 17, April 20, 1839の記事については以下を参照。Steffen Siegel, Editor, *First Exposures-Writing from the Beginning of Photography*, The J. Paul Getty Museum, 2017

[5] Reinhart and Reinhart, *The American Daguerreotype*, University of Georgia Press, 1981, p.19によると、モースの手紙は200以上の印刷物に掲載されている。

drawings will be found so perfect that distant houses, appearing not larger than a pin's head, may be magnified to discover doors, windows, &c. -The process is rapid and simple, but requiring delicacy and a certain adhearance to rules which will be explicitly laid down, as well as the particular minutiae to be observed to ensure a certainly of success. The process cannot be carried to ultimate completion by candlelight, but every stage of the operation will be exhibited to familiarise others with the mode. The following scientific gentlemen have given permission to be referred to as being familiar with the process and its extraordinary results: President Duer, Columbia College; Professor Morse; James R. Chilton, Esq.; Jno. L. Stephens. Esq. Tickets, 50 cents, may be had of Dr. Chilton, 263 Broadway; at the Messrs. Carvill's, at the Booksellers', and at the Stuyvesant Institute, -Broadway.

上記記事にはレクチャーの日時、ダゲレオタイプについての説明とともに、ダゲレオタイプ制作に技術が要求されること、開催時間が夜でろうそくの光では光量が足りないため、実演は完遂できないが、工程については説明することが記されている。最後の部分では、ダゲレオタイプの技術に習熟していると述べることを許されている者として、コロンビア大学の学長ウィリアム・アレクサンダー・デュアー (William Alexander Duer, 1780-1858)、シーガーの少し後にダゲレオタイプの撮影に成功したモースと、医者、化学者、薬局の経営者のジェームズ・R・チルトン (James R. Chilton, 生没年不詳) の名前が記載されている。チルトンは、後に自身の薬局でダゲレオタイプの薬品の販売を行っている。シーガーは1839年9月30日から、少し後にモースも、ブロードウェイのチルトンの店舗で展示を行っている^[6]。

自分でダゲレオタイプの技術を習得する者によってダゲレオタイプが伝わる一方で、ダゲールとアルフォンス・ジルー (Alphonse Giroux, 生年不詳-1848) の代理人、フランソワ・グーロー (François Fauvel Gouraud, ca.1808-1847) も1839年にフランスから渡米し、ニューヨーク、ボストン、フィラデルフィア等東海岸の各都市で展示と講演を行った。1840年3月25日付 Daily Evening Transcript紙のボストン版 (Fig.2) には、ボストンのホルティカルチュラル・ホールで行われる展覧会とレクチャー、デモンストレーションの告知が以下の通り掲載されている。

THE EXHIBITION OF THE DAGUERREO-TYPE, or the Wonderful Drawing produced by rays of light, is now open at the Horticultural Hall, 23 Tremont Row.

This highly interesting exhibition is composed of a choice collection of the most beautiful specimens of the art that may ever be expected to be seen. M. GOURAUD will deliver his lectures or practical demonstrations of the process, at the Masonic Temple. The State House or the Park Street Church are the views which will serve to illustrate the lectures. Visitors to the Exhibition will be entitled to tickets of FREE ADMISSION TO THE LECTURES. One lecture is sufficient to initiate any attentive auditor in all the peculiar details of the process, and enable the amateurs, provided with a correct apparatus, to obtain immediately a beautiful picture without any previous knowledge of the art of Drawing.

The Exhibition will be open from 10 A M to 9 P M.
Admittance, 50 cents. Tickets may be had at Simpkins's bookstore, 21 Tremont Row, or at the door of the exhibition.
Members of schools, academies, or other institutions for education, will be admitted, by classes, at half price.
NOTICE. For the convenience of amateurs who would not attend these lectures in a public assembly, or who would be desirous of acquiring the most thorough knowledge of the art, M. Gouraud will deliver private practical lessons to parties of 5, 10, or 15 persons. iseoptic mh 9

(Fig.2)

「ダゲレオタイプの展覧会」
デイリー・イブニング・トランスクリプト、
ボストン版1840年3月25日付
“The Exhibition of Daguerreotype”, *Daily Evening Transcript*, Boston, 25th March, 1840

THE EXHIBITION OF THE DAGUERREO-TYPE, or the Wonderful Drawing produced by rays of light, is now open at the Horticultural Hall, 23 Tremont Row. This highly interesting exhibition is composed of a choice collection of the most beautiful specimens of the art that may ever be expected to be seen. M. GOURAUD will deliver his lectures or practical demonstrations of the process, at the Masonic Temple. The State House or the Park Street Church are the views which will serve to illustrate the lectures. Visitors to the Exhibition will be entitled to tickets of FREE ADMISSION TO THE LECTURES. One lecture is sufficient to initiate any attentive auditor in all the peculiar details of the

[6] Sarah Kate Gillespie, *The Early American Daguerreotype*, The MIT Press, 2016, p.103

process, and enable the amateurs provided with a correct apparatus, to obtain immediately, a beautiful picture without any previous knowledge of the art of Drawing. The Exhibition will be open from 10 AM to 9 PM. Admittance, 50 cents. Tickets may be had at Simpkins's bookstore, 21 Tremont Row, or at the door of the exhibition. Members of schools, academies, or other institutions for education, will be admitted, by classes, at half price. NOTICE. For the convenience of amateurs who would not attend these lectures in a public assembly, or who would be desirous of acquiring the most thorough knowledge of the art. M. Gouraud will deliver private practical lessons to parties of 5, 10, or 15 persons. iseoptic mh9

展覧会とデモンストレーションの告知とともに、5、10、15名でプライベート・レッスンが受けられる旨が記載されている。この時の講演を聴講したボストンの歯科医サミュエル・A・ベミス (Samuel A. Bemis, 1793-1881) は、ゲーローからダゲレオタイプ・カメラ一式を購入し、1840～43年頃までアマチュアとして風景を撮影した。

アメリカにおけるダゲレオタイプの発展



(Fig.3)
ウォルコット・カメラ (レプリカ) /
アレクサンダー・ウォルコット / 1839年
Wolcott Camera Replica, Alexander Wolcott, 1839

ダゲールが公表した処方では、まだ露光時間の長さから人物の撮影は困難を極めたため、各国の写真家や光学技術者たちは露光時間の短縮のために様々な取り組みを行っている。中でも、アメリカでは様々な取り組みが行われ、最初期の肖像写真も撮影されている。フィラデルフィアでは、ペンシルバニア大学の化学者ポール・ベック・ゴダード (Paul Beck Goddard, 1811-1866) と、金属加工工場 で働いていたロバート・コーネリアス (Robert Cornelius, 1809-1893) が1839年12月からダゲレオのプロセスの研究を始め、臭素を銀板に蒸着させることによって大幅に露光時間を減らす処方を1840年に公表した。

ニューヨークで歯科医用品の製造をしていたアレクサンダー・ウォルコット (Alexander Wolcott, 1804-1844) は、1839年10月に、時計製作の訓練を受け化学の知識も有するジョン・ジョンソン (John Johnson, 1813-1871) からダゲレオタイプの話を知る。ウォルコットはすぐに、内部の凹面鏡にイメージを反射させて撮影するレンズを持たないカメラ (fig.3) を発明した。このカメラは、5 cm四方の小さな画像しか得られなかったが、肖像の撮影に成功する。ウォルコットはウォルコット・カメラと名付け、1840年5月に特許を取得し、これはアメリカで最初に特許を取得したカメラとなる。1841年にロンドンでヨーロッパ初の写真館を開業したリチャード・ビアード (Richard Beard, 1801-1885) に購入され使用された。ウォルコット・カメラで撮影後、ビアードの名前の装飾が付いた額に入

れられた写真が現在も残っている (fig.4)。

ニューヨーク大学の化学の教授ジョン・ウィリアム・ドレーパー (John William Draper, 1811-1882) は、学術的興味から肖像写真の撮影に取り組んだ。1840年3月にLondon and Edinburgh Philosophical Magazine誌に、肖像写真の撮影に成功したこと、肖像写真の撮影には大口径で短い焦点距離のレンズを使用すること、使用薬品に臭素を加えることを勧めてい^[7]。ドレーパーは同年7月28日に同誌に記事を投稿する際、ダゲレオタイプの定着にチオ硫酸ナトリウムを使用することをダゲールに提案したイギリスの科学者ジョン・ハーシェル (John Herschel, 1792-1871) へ妹のドロシー・キャサリン・ドレーパーの肖像写真とメモを渡すように依頼した。アメリカに渡ったばかりのダゲレオタイプがアップデートされ、その情報や技術がイギリスと少ないタイムラグで共有されていたことを知ることができる史実といえるだろう。



(Fig.4)
リチャード・ビード／男性像／1845年頃
Richard Beard, *Portrait of a Man*, ca.1845

写真館の隆盛

ダゲレオタイプは、技術の進歩により、客の依頼を受けて肖像写真を撮るという新しいビジネスに展開し、多くの人々が参入するようになる。アメリカでの肖像写真のビジネスは、ニューヨーク、ボストン、フィラデルフィア等の東海岸の都市部の写真館と、地方を巡業する移動写真家を中心に展開した。ニューヨークはモースがニューヨーク大学を拠点に何人もの弟子を輩出し、シーガーがアメリカで最初にダゲレオタイプの展示を行ったこともあり、アメリカの写真産業の中心地となった。当時のアメリカで最も著名な写真館は1844年にブロードウェイに開業した(後に移転)マシュー・ブレイディ (Mathew Brady, ca.1822-1896) ・スタジオである。ブレイディは客の依頼で肖像写真を撮影する一方で (Fig.5)、エイブラハム・リンカンをはじめとする政治家から、奴隷制度廃止論者、学者、聖職者、作家、俳優まで、当時のアメリカ社会を形づくる様々な著名人を精力的に撮影し、写真家という新しい職業の社会的な役割を作り上げた^[8]。

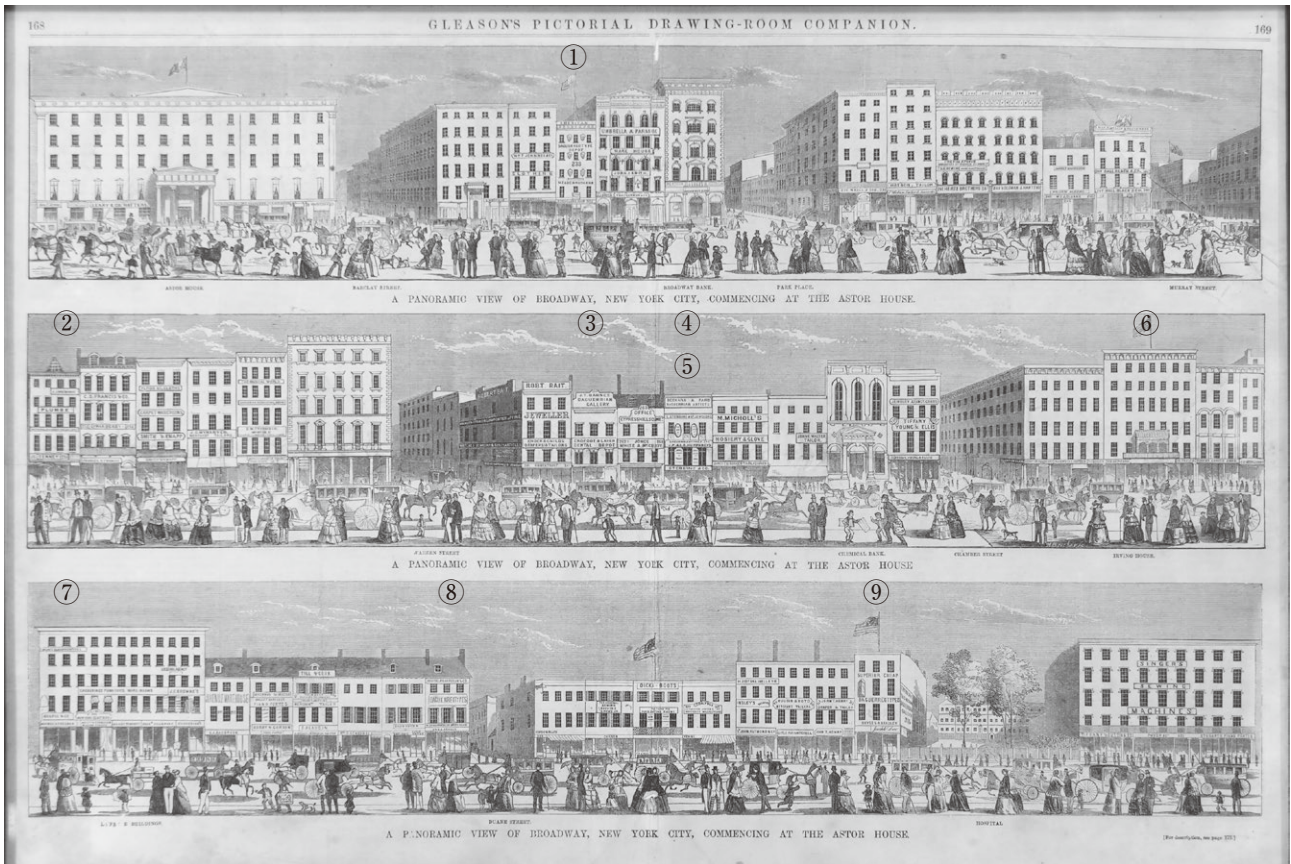


(Fig.5)
マシュー・ブレイディ／ルーベン・セイダース別名利チャード・トーマス・オースティンの肖像／1845年頃
Mathew Brady, *Rev. Reuben Seiders, Alias Richard Thomas Austin*, ca.1845

[7] Gillespie, pp118-119

[8] アラン・トラクテンバーグ著、生井英考・石井康史訳『アメリカ写真を読む 歴史としてのイメージ』白水社、1996年、pp.78-79

1850年代になるとニューヨークの繁華街であるブロードウェイは、様々な業態の写真館がひしめき合うようになる。1854年のブロードウェイの様子を描いたヘンリー・ブリチャーの版画「アスター・ハウスから始まるブロードウェイのパノラマ景色」(『グリーソンズ・ピクトリアル・ドローイングルーム・コンパニオン』より) (Fig.6) には、8軒の写真館が見られる。



(Fig.6)
 ヘンリー・ブリチャー／「アスター・ハウスから始まるブロードウェイのパノラマ景色」(『グリーソンズ・ピクトリアル・ドローイングルーム・コンパニオン』より)／1854年
 Henry Bricher, 'Panoramic View of Broadway, New York City, Commencing at the Astor House', *Greason's Pictorial Drawing-Room Companion*, 1854

- ①ミード兄弟 (Mead Brothers)
- ②ジョン・ブルーム・ジュニア (John Plumbe Jr.)
- ③J・T・バーンズ (J. T. Barnes)
- ④ベッカー&ペアード (Beckard & Paired)
- ⑤J・P&E・B・ハンフリーズ (J. P. & E. B. Humphreys)
- ⑥アーヴィング・ハウス (Irving House)
- ⑦サイラス・A・ホルムズ (Silas A. Holms)
- ⑧ドビンス・リチャードソン&カンパニー (Dobyns Richardson & Co.)
- ⑨ベイルズ&ブラッドレー (Bayles & Bradley)



(Fig.7)
「ミード兄弟のブロードウェイの写真館内部の様子」
『グリーンソズ・ピクトリアル・ドロイングルーム・
コンパニオン』より) / 1854年
Interior View of Meade Brothers' Daguerreotype Gallery,
Broadway, New York, *Greason's Pictorial Drawing-Room
Companion*, 1854

①ヘンリー(Henry, 1823-1865)とチャールズ(Charles, 1826-1858)のミード兄弟は、1842年にオルバニーに最初の写真館を開業し、1852年に旗艦店をニューヨークに出店した。著名人を多く撮影し、1848年にダゲールの肖像写真を撮影したことで知られている。1851年にロンドン、1855年にパリでも展示を行っている。ミード兄弟の写真館は、当時の多くの写真館のように、内部にギャラリーを設け、来館者が作品を見たり、顧客に撮影までの時間を過ごしてもらったりしていた。その様子は「ミード兄弟のブロードウェイの写真館内部の様子」(『グリーンソズ・ピクトリアル・ドロイングルーム・コンパニオン』より) (Fig.7) で知ることができる。

②ジョン・ブルーム・ジュニア(John Plumbe Jr., 1809-1857)は1841年にボストンに最初の写真館を開いて以降、ボルチモア、フィラデルフィア、ニューヨーク、ワシントンD.C.等全米に写真館を開き、アメリカで最初期に写真館のチェーン展開をした人物である。ニューヨークの写真館は1847年頃に売却していることから、この版画の時期は経営者が変わっていると考えられる。

③J・T・バーンズ(J. T. Barnes, 生没年不詳)の作品1点を横浜市民ギャラリーあざみ野で所蔵しているが、スタジオの詳細は詳らかではない (Fig.8)。

⑦サイラス・A・ホルムズ(Silas Aurelius Holms, 1820-1886)は、1850年からブロードウェイで何度か移転しながら1860年代まで写真館を経営した。クリスマスの時期には25セント、1ドル、5ドル、12点9.5ドルで撮影する広告を出すなど、廉価でポートレイトを撮影した。

⑧トーマス・ジェファソン・ドビンス(Thomas Jefferson Dobyns, ca.1802-1865)、V・L・リチャードソン(V. L. Richardson, 生没年不詳)は、1853年に開業。ドビンスはニューオリンズ、ヴィックスバーグ、ルイビル等で写真館をチェーン展開しており、1853年からリチャードソンとパートナーシップを組み、ナッシュビルに支店を出した後、ニューヨークにも出店した。



(Fig.8)
J・T・バーンズ/3人の子ども1850年頃
J. T. Barnes, *Three Children*, ca.1850

また、⑥のアーヴィング・ハウス(Irving House)は、別名グラニテ・ビルディング(Granite Building)と呼称された建物で、この版画の時点では写真館は無いが、ここは1839年にゲーローが講演を行った場所であるとともに、1840~44年にウォルコットがジョン・ジョンソンとニューヨークで最初の写真館「ダゲリアン・パーラー(Daguerrean Parlor)」を開業した場所である^[9]。

アメリカでダゲレオタイプの制作が最盛期を迎える1853年には、ニューヨークには約100軒もの写真館が軒を連ね、約300万枚の肖像写真が撮影され^[10]、激しい競争が繰り広げられた。

[9] グラニテ・ビルディングについては以下を参照。Gillespie, pp.100-101

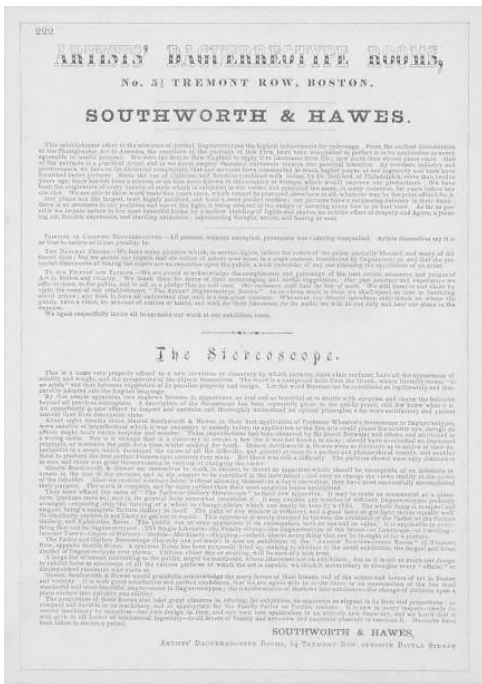
[10] クエンティン・バジャック著、伊藤俊治監修、遠藤ゆかり訳『写真の歴史』創元社、2003年p.41

ボストンの二組の写真家

様々な業態を工夫して他館と差をつけようとする写真館がある一方で、表現を追求することによって他館と差別化を図る写真館も現れる。1837年の恐慌の打撃をそれほど受けず、成長著しいボストンの街では、同時期に活動した二組の写真家が独自の表現を生み出した。ダゲレオタイプをモースから習得したアルバート・サウスワース (Albert Sands Southworth, 1811-1894) は、肖像画家のジョサイア・ジョンソン・ホーズ (Josiah Johnson Hawes, 1808-1901) とともに、1843年にボストンの芸術家たちがアトリエを構えるトレモント・ロウの一角に写真館「アーティスト・ダゲレオタイプ・ルーム (Artist's Daguerreotype Room)」を開業する。高い技術が要求され、高価なホールプレート (16.5×21.5cm) で、ダニエル・ウェブスター、ローラ・モンテス等の著名人を数多く撮影した。

サウスワース&ホーズはスタジオ名の通りアーティストを自認し、独自の表現を追求した。紗幕や反射板を利用し、自然光のライティングを調節、プレートも電気を用いて銀を厚めにメッキ処理し、磨く道具も独自に開発した。また、カメラの内部を白く塗って撮影することによって陰影を和らげ、水銀現像の際には水銀の温度を摂氏70度以下にすることによって、銀板に独特の淡い色調を作り上げた [PL.2] (p.6)^[11]。

サウスワース&ホーズは1854年頃に下記の通りの広告を出している (Fig.9)。



(Fig.9) サウスワース&ホーズ写真館の広告／1853年頃
The Advertisement of Southworth & Hawes Studio, ca.1853

SOUTHWORTH & HAWES. This establishment offers to the admirers of perfect Daguerreotypes the highest inducements for patronage. From the earliest introduction of the Photographic Art to America, the exertions of the partners of this Firm have been unequalled to perfect it in its application to every agreeable or useful purpose. We were the first in New England to apply it to likenesses from life; now more than eleven years since. One of the partners is a practical Artist, and as we never employ *Operators*, customers receive our personal attention. By constant industry and perseverance, we have so far distanced competition, that our services have commanded as much higher prices, as our ingenuity and taste have furnished better pictures. Since the use of Chlorine, and Bromine combined with Iodine, by Dr. Goddard, of Philadelphia, more than twelve years ago, there has not been a process or an idea made known in this country or Europe, which would improve our productions. We have been the originators of every variety of style which is exhibited in our rooms, and practiced the same,

in many instances, for years before any one else. We are able to show work made five years since, which cannot be procured elsewhere at all, whatever may be the price offered for it. Our plates are the largest, most highly polished, and have a more perfect surface; our pictures have a surpassing delicacy in their fin-

[11] サウスワース&ホーズの技術については、下記を参照。Michael Robinson, "A Style Peculiar to Themselves: An Investigation into the Techniques of Southworth & Hawes" *Young America*, 2005, pp.489-493

ish; there is no sameness in our positions and use of the light, it being adapted to the design of showing every face in its best view. As far as possible we imitate nature in her most beautiful forms, by a mellow blending of lights and shades, an artistic effect of drapery and figure, a pleasing air, forcible expression, and startling animation; representing thought, action, and feeling or soul.^[12]

上記の広告で、二人は自分たちの作品のアピールと、高価な理由、ゴダードの発明についても記載している。また、撮影はオペレーターを雇わずに自らが行うことが書かれている。これは当時、マシュー・ブレイディ、ジョン・ブルーム・ジュニアらの写真館のように、写真家の名前を冠していても、実際の撮影はオペレーター

に行わせる写真館があったことが背景にある。実際にサウスワース&ホーズは支店を出すことなく、すべて自分たちで撮影を行っており、技術への拘りとアーティストとしての自負心がうかがえる。

ボストンでサウスワース&ホーズの競争相手となったのは、もともとダゲレオタイプ用の薬品の販売業に従事し、1844年に健康上の理由から写真撮影を専業にするようになったジョン・アダムス・ホイップル (John Adams Whipple, 1822-1891) である。蒸気を利用した銀板研磨器を導入するなど、ダゲレオタイプの制作に独自の工夫を施し、高い技術でホールプレートながら精緻なダゲレオタイプを多く撮影した。「ボストン消防局長ウィリアム・バーニコートの肖像」(Fig.10) は、本来左右逆像になるはずのダゲレオタイプが正像になっている。ダゲレオタイプを正像にする方法は、プリズム付きのカメラで撮る、鏡ごしに撮るなどの方法が考えられる。しかし、ホイップルがどのような方法を使ったかについて、現段階で詳らかになっていない。ホイップルの技術に関する更なる研究が待たれる。



(Fig.10)
ジョン・アダムス・ホイップル／ボストン消防局長ウィリアム・バーニコートの肖像／1848年頃
John Adams Whipple, *William Barnicoat, Chief Engineer of Boston Fire Department*, ca.1848

[12] 本文 1-13行。

おわりに

1839年にフランスで生まれたダゲレオタイプは、その年のうちに新興国アメリカに渡った。そして、ゴダード、ドレーパーをはじめとする科学者たちや、ウォルコットら肖像写真にビジネスの可能性を見出した人々の探求によって、1839～40年には肖像写真への道が切り拓かれた。肖像写真のビジネスに参入した多くの写真家たちは、生き残りをかけて、あるいは写真という新しいメEDIUMを使用するアーティストとしてのあり方を模索し、科学、技術、表現を結びつけながらダゲレオタイプを進歩させていった。加えて、肖像を得ようとする購買者もダゲレオタイプの発展を後押しした。

ダゲレオタイプがヨーロッパよりもアメリカで普及したことの背景について、オルセー美術館、ポンピドゥーセンター、ルーブル美術館を歴任した写真史家のクエンティン・バジャックは、アメリカには伝統的肖像画の歴史が無いことから、ダゲレオタイプの持つ新しいイメージが受容されやすかったと指摘している^[13]。実際に、アメリカでダゲレオタイプの新規性と迫真性、絵画と比べて速い制作の速度と価格の安さ、物質性は人々を魅了し、すぐに需要を広げていった。そして、ヨーロッパでは紙焼き写真が主流となった1850年代も制作され続ける。アメリカの初期写真は、ダゲレオタイプを用いた写真館を起点に文化を波及させ、写真家の探求心と新しいテクノロジーに対する人々の欲求が最良のスパイラルを生むという関係によって、発展したといえるのである。

(横浜市民ギャラリーあざみ野学芸員)

[13] バジャック、p.40

[付記]

本稿の執筆にあたり、三井圭司氏に助言をいただきました。この場を借りて心より御礼を申し上げます。

指導チューター：天野太郎（横浜市民ギャラリーあざみ野主席学芸員）

A Study of the American Daguerreotypes in the Collection of Camera and Photography of the Yokohama City

Hibiya Akiko

(Assistant Curator, Yokohama Civic Art Gallery Azamino)

In 2006, the Yokohama Civic Art Gallery Azamino became the custodian of the Collection of Camera and Photography of the Yokohama City (formerly, the Naylor Collection), a collection purchased by the city from the late American collector Thurman F. Naylor in 1993 and 1994. The collection includes 376 daguerreotypes, and is defined and distinguished by a large number of American daguerreotypes.

The daguerreotype was invented in France, and was later imported to the burgeoning nation of America. Soon after this, scientists like Paul Beck Goddard (1811-1866) and portrait photographers like Alexander Wolcott (1804-1844) began to explore the business potential of daguerreotypes and technological innovations. These pioneering efforts resulted in the rise of portrait photography. Many of the photographers who became involved in the new business staked their professional survival on making a profit from portraiture, while others searched for ways to use the new medium for art. This led the daguerreotype to develop further in conjunction with science, technology, and creative expression. Early American photography was primarily rooted in photo studios, and daguerreotypes continued to be produced in the 1850s even after paper-printed photographs had become widespread in Europe.

In this paper, I examined various items in Yokohama City collection, including an article on an early lecture on the daguerreotype in America that was given after the medium was officially announced in August 1839. In addition, I surveyed works and advertisements related to photographers such as Matthew Brady (c. 1822-1896), Albert Sands Southworth (1811-1894), Josiah Johnson Hawes (1808-1901), and John Adams Whipple (1822-1891), who were active in New York and Boston, and played a key role in photography culture. Based on the information I obtained from these documents and my observations, I considered the reception of early photography in the U.S., including the management conditions of photo studios.